A-4 ビオトープで小さな生態系を感じてみよう

～学校のエコアップでいきものが棲める環境を学びます～

講義担当：よこはま里山研究所～NORA

講座対象者	□小学校低学年　■小学校中学年　■小学校高学年 □放課後施設利用児童　■中学生　□高校生　□大学生　□地域一般		
授業活用例	3･4 年「理科：身の回りの生物」、5･6 年「理科：生物と環境」 総合、委員会		
関連のある SDGsのゴール	3. 4. 11. 13. 15. 17	オンライン授　業	□可　■不可
対応可能曜日	■平日　□休日　□その他（　　曜日）		
対応時間	8 時～17時		
年間実施上限数	特になし		
講座実施方法 ※（　）は場所等	■講義（ビオトープの意義、作り方、管理活用など） ■ワークショップ（ビオトープ計画づくりを児童・生徒と考える、ビオトープ整備） ■自然体験（自校のビオトープの生きもの観察）		
講座所要時間	45 分から 90 分 （調整可能）		
実施条件、 必要な準備等	講義：液晶プロジェクタ　もしくは　大型テレビ ワークショップ・自然体験：児童・生徒が使う道具類（例：スコップ、バケツ、網、水槽など） お願いします		

講座内容
1 本講座の目的・ねらい ビオトープとは、生物が自らの力で生きていくことのできる場所を意味します。学校トンボ池は代表的なビオトープの一つですが、校内の水田や畑、草地、樹木なども生物の生息環境として捉えることができ、学校全体をビオトープと見ることもできます。学校の外に目を向けてみると、横浜市内には水田や畑、草地や樹林地など『里山』と呼ばれる自然環境が残されており、多様な生物の生息場所となっています。この里山の自然は人々の営みの結果として育まれてきた環境です。人の営みが生態系形成の一躍を担うことで人と自然との共生関係が成立していることが理解できます。 本講座では、都市の中でわずかに残された里山や公園・樹林地などの自然環境と学校ビオトープのつながりや人が自然と関わることで結果として自然環境が保全されるということを学びます。また、実際に児童がビオトープと関わることで、生物多様性や人と自然の関わりの大切さを実体験できます。講座をとおして、横浜の緑の大切さを考えるきっかけとなることを期待します。 2 内容（実施時間に応じて内容を調整します。） （1）講義の場合 ビオトープとはなにか、どういう意味があるのか、横浜の自然の変遷、学校ビオトープと里山のつながり、学校ビオトープでどのような生きものが生息できるか、ビオトープの管理・活用方法などについて一緒に考えます。授業で調べ学習が進んでいる場合は、疑問にもお答えします。 （2）ワークショップの場合 児童・生徒と話し合いをしながら、ビオトープ（計画）づくり等のお手伝いをします。 3 その他 授業は担任の先生と組み立てたいと思います。

問合せ先：よこはま里山研究所
メールアドレス：shimamura@nora-yokohama.org